

# 男女共同参画社会に関するアンケート 調査結果

## I 調査について

### 1 調査目的

南知多町では、誰もが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる社会を目指し、「第2次南知多町男女共同参画計画」の見直しを行っています。

このたび、計画の具体的な目標値を定めるにあたり、町民の皆さまが日々の生活の中で「男女の平等」をどの程度実感されているかを調査することといたしました。

### 2 調査項目

家庭や職場、地域の慣習など、様々な場面における「男女の平等感」についてお尋ねします。

### 3 調査設計

- (1)調査区域 南知多町全域
- (2)調査対象者 南知多町在住者
- (3)調査期間 令和8年3月4日(水)～令和8年3月18日(水)
- (4)調査方法 アンケート回答フォーム(google フォーム)による調査

### 4 回答数

回答数	性別		
	男性	女性	回答しない
133人	62人	65人	6人
100%	46.6%	48.9%	4.5%

## Ⅱ アンケート結果

### 【総括】

#### ① 全体的な傾向

本調査では、家庭生活・職場・学校教育・地域活動・政治・社会通念・社会全体の7つの分野において男女平等の実感を尋ねた。

全分野を通じて、「男性が優遇されている」方向の回答が「女性が優遇されている」方向の回答を大きく上回っており、南知多町においても男性優遇の意識・実態が広く認識されていることが明らかとなった。

男性優遇の認識が特に高かった分野は政治（61.7%）・社会通念（68.4%）・社会全体（60.2%）であり、制度や慣習の領域での格差感が強い。一方、学校教育（12.0%）は男性優遇と感じる割合が最も低く、教育現場での平等化が比較的進んでいることが示された。

#### ② 男女間の認識の差

全設問を通じて、男女間の認識の差が一貫して見られた。女性は男性よりも男性優遇を強く感じており、その差は特に家庭生活（女性 69.2% ・ 男性 25.8%）と職場（女性 55.4% ・ 男性 37.1%）で顕著であった。

男性は各分野で「差はない」と回答する割合が女性より高く、日常的に優遇される立場にある場合、その格差を認識しにくいという構造的な問題が示唆される。

#### ③ 世代・環境による意識の差

複数の自由意見から、**年齢層による意識の違い**が大きいことが示された。高齢者ほど男性優位の考え方が強く、若い世代では変化を感じているという指摘が多く、意識の変革は進行中であるものの、世代間の断絶がその速度を妨げている可能性がある。

また、「田舎ほど女性の立場が弱い」「地区によって女性の立場が異なる」という声もあり、地域特性が男女平等の実感に影響していることもうかがえる。

#### ④ 制度と意識

自由意見全体を通じて、「制度は整いつつあるが、意識や慣習が追いついていない」という趣旨の指摘が多数見られた。育休取得の困難さ、管理職への女性登用の遅れ、家事・育児の女性への集中など、制度上は整備が進んでいるにもかかわらず現場での実態が変わっていない場面が多く指摘されており、**制度整備と並行した意識改革**が重要な課題として浮かび上がっている。

また、「男性も育休が取りにくい」「男性も仕事のプレッシャーが大きい」という声が示すように、性別役割の固定化は女性だけでなく男性にとっても制約となっており、男女共同参画の推進は男女双方にとってのメリットとして発信していくことが有効と考えられる。

## I 家庭生活

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	15人(11.3%)	3人(4.8%)	11人(16.9%)	1人(16.7%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	49人(36.8%)	13人(21.0%)	34人(52.3%)	2人(33.3%)
差はない	51人(38.3%)	36人(58.1%)	13人(20.0%)	2人(33.3%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5人(3.8%)	1人(1.6%)	3人(4.6%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	4人(3.0%)	4人(6.5%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
わからない	9人(6.8%)	5人(8.1%)	4人(6.2%)	0人(0.0%)

### 【自由意見】

- ・家事、親戚の付き合い、子育て全てお任せ
- ・家事は殆どが女性
- ・子どもの学校行事等の管理、習い事の管理は母
- ・食事、洗濯などまだ女性がやるものという習慣がある
- ・家事は女がやって当たり前みたいな態度
- ・家事は女の人とするものとして何もしない
- ・最近の男性は女性に対し優しくなり女性は強くなってきていると、感じます
- ・夫がこまめで優しいので、女性優位になっていると感じる。
- ・家庭によると思うけど、育児にもっと父親も積極的に参加するべきだと思う。今の母親は仕事もして家事もして育児もしてタスクが多すぎる。人によるけど男性は仕事だけで羨ましいなと思う。
- ・家事や育児を女性が負担することが多い
- ・専業主婦の私の場合は「仕事」という領域は侵すことはできない。と考えてしまう。腹が立つことは多々あったとしても。
- ・子育て世帯での家事分担が圧倒的に女性が大きい。共働きで。
- ・親戚同士の付き合いでは、男性意見が決定権を持っている。
- ・仕事をしている女性の家事
- ・男はほとんど家事やらない
- ・女性が気付きすぎるのか男性(子供含む)に主体性がないのか、女性が担わないと家庭が回らない。男性の意識やスキルが低いから女性の仕事量が増える。
- ・子どもの病気や学校行事の参加はいまだに母親が休みを取らなければならない。また、同じようにフルタイムで働いていても、家事ごとは女性の方がしている
- ・家事の負担が女性の方が多から。男性の方が勤務時間が長くて帰りが遅い
- ・家事全般を奥さんにやってもらっている
- ・一般的に、家事や育児、介護などは女性の方が得意と思われる。よって男性の家庭での自由時間は多くなることがある。
- ・子どもが病気になっても仕事を休もうとしない
- ・家事、育児も当事者ではなく手伝うというスタンスである
- ・家事は女性の負担が多い
- ・女性が家事を行い、男性は家事をしない人が多いから。
- ・暗黙の了解で、女性がやってあたりまえ的な感覚がある
- ・女性がケアをするというのが当然という意識がある
- ・家事・育児の不参加が目立つ。
- ・家事育児の分担量(男性が優遇されている)

- ・男性によっては、家事育児は母親がメインでやるものと思っている人がまだまだたくさんいる。母親も働いている場合は、母親の負担が大きくなっている。

#### 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の48.1%と約半数が男性優遇を感じている。一方、「差はない」も38.3%と一定数を占めており、家庭によって状況が異なることがうかがえる。

性別で見ると、男女の認識に大きな開きがある。女性では男性優遇と回答した割合が69.2%（「男性が優遇されている」16.9% + 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」52.3%）に達する一方、男性では25.8%にとどまっている。男性の58.1%が「差はない」と回答しており、家庭内の役割分担に関する男女間の意識の差が際立つ結果となった。

自由意見では、「家事は女性がやるものという習慣がある」「共働きでも家事・育児の負担が女性に偏っている」「子どもの学校行事や病気への対応も母親が休みを取らざるを得ない」といった声が多数寄せられており、家庭内における性別役割分担意識が依然として根強いことが示されている。

## 2 職場

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	19人(14.3%)	2人(3.2%)	17人(26.2%)	0人(0.0%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	42人(31.6%)	21人(33.9%)	19人(29.2%)	2人(33.3%)
差はない	50人(37.6%)	27人(43.5%)	20人(30.8%)	3人(50.0%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	9人(6.8%)	5人(8.1%)	3人(4.6%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	4人(3.0%)	3人(4.8%)	1人(1.5%)	0人(0.0%)
わからない	9人(6.8%)	4人(6.5%)	5人(7.7%)	0人(0.0%)

### 【自由意見】

- ・ 立場(男性が優遇されている)
- ・ 男性管理職が多い。男だからという理由で管理職に就いている。
- ・ 男性のが必要とされる場面が多い
- ・ 中々定年まで勤める人が少ないかな(男性が優遇されている)
- ・ 男性の方が役職つくのが早いし、多いその分、責任が付くのは承知してはいるが。
- ・ 昇給の頻度や初任給など(男性が優遇されている)
- ・ 女性の管理職はまだまだ少ない。(女性の能力のほうが、うわまっている場合でも)
- ・ 役職上位男性多数
- ・ 給料、考え方昭和時代が多過ぎて全く今の時代に合わせようとしていない改善されない
- ・ 年齢が上の人ほど、男性優位と思っている人が多い。
- ・ 大企業だと産休後も復帰できることがあるけど、中小だと新たに人を採用したりして戻れないことも多いと感じるため
- ・ 管理職は男性の方が多い
- ・ 男女平等の観点から各ポジションに女性の起用が進められている。
- ・ 現場仕事等を担当する際差がある
- ・ 昇格が厳しいと思います
- ・ 出世の違い(男性が優遇されている)
- ・ (女性は)守るべき対象として扱われている。給与面では逆に優遇されてない。
- ・ 職種や男女比率による。
- ・ 職に就く割合は男性の割合が高い。
- ・ ハラスメントで片付けること
- ・ 公務員だが、女性が優秀で女性の採用が増えるものの、「男手」は必要で、重量物の運搬や高所の荷物を取ったり、事業者対応で相手によっては「なめられないように」男性を配置する必要がある時があるので、「女性に難しいこと」について一定数男性を確保しなければならないから。
- ・ 男性の方が地位や給与で優遇されています
- ・ 生理休暇が取らづらい。
- ・ 昇格する人が男性が多いから
- ・ 今現在では男性が優遇されていますが少しずつ女性も活躍する社会に変わりつつあると感じています。
- ・ お茶出しなどの接客準備は女性がする場合がほとんどである
- ・ 課長など役職に就いている人は男性が多いから。
- ・ 女性の方が仕事を続けていくためには、まだ、負担が大きい。
- ・ 管理職は女性が少ない
- ・ 昇格面で男性が優遇されている
- ・ 管理職は、もちろん男性
- ・ 環境は多少変わってきてはいるようにおもうけ

れど一部医療現場では、平等感があるが、職場により違うのでは

- ・上司になる人は男性が多く、女性は妊娠等があったとしても割合的にも少ない。女性の考え方も取り入れた方が柔軟に対応できる。高年の男性は昭和的な考え方が強く今の時代に合わない。
- ・男性は産休や育休がとりづらいイメージがある
- ・女性目線からの意見ばかりで、男性由来の事由などに対する検討はないのかなと思います
- ・体を動かす内容の作業は男性という固定観念の

ようなものがあり、また女性もそれが当たり前と考えているように感じる。体を動かさない内容の作業は男性も女性と同様に行っている。

- ・子育てにおいて女性の方が休みやすいと思う。
- ・男性の育休は大手企業しかまだ取得できない。中小企業や個人経営会社も取得できるよう、また取得しなければならない義務になればよい。
- ・そもそも、男女の平等がどこまでかをきちんと示していないからわからない。

### 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の45.9%が男性優遇を感じており、「差はない」の37.6%を上回った。

性別で見ると、女性の55.4%が男性優遇と回答した一方、男性では37.1%にとどまっている。特に「男性が優遇されている」と強く感じているのは女性で26.2%であるのに対し、男性は3.2%と大きな差がある。男性は「差はない」が43.5%と最も多く、職場における男女格差の体感に男女間で顕著な認識の差があることがわかる。

自由意見では、管理職・役職者に男性が多いこと、昇給・昇格における男女差、産休・育休取得のしづらさなどが繰り返し指摘されている。一方で「男性の育休が取りにくい」「体を動かす業務は男性という固定観念がある」という声もあり、性別役割の固定化は女性だけでなく男性にも制約をもたらしていることが読み取れる。また、「少しずつ女性も活躍する社会に変わりつつある」という変化を感じる声もあり、改善傾向への期待も示されている。

### 3 学校教育の場

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	4人(3.0%)	1人(1.6%)	3人(4.6%)	0人(0.0%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	12人(9.0%)	7人(11.3%)	5人(7.7%)	0人(0.0%)
差はない	72人(54.1%)	35人(56.5%)	35人(53.8%)	2人(33.3%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6人(4.5%)	4人(6.5%)	1人(1.5%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	1人(0.8%)	1人(1.6%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
わからない	38人(28.6%)	14人(22.6%)	21人(32.3%)	3人(50.0%)

#### 【自由意見】

- ・大学の女子枠
- ・男の先生が多い
- ・最も差があってはならない場だと思う
- ・校長、教頭の役職等今までは男性教員が主流であったと感じる。
- ・息子が小学生で、水泳の着替え等は女子が「守られて」いて、性差優遇も必要だと納得している。トイレは往々にして男子は「汚い」ので自業自得とはいえ、トイレを我慢することになる。また、男子は個室に入るとからかわれるので入りにくい独特の問題がある。
- ・生理休暇が取れない
- ・40年以上前から男女の教員にあまり差はないと思います。
- ・入学試験における女性枠の存在。
- ・あまりよくわかりませんが、教育現場では変わったきているのではと思う
- ・トイレや更衣室事情は、古いままなので女性の方が不便かと思いますが、男女いずれかの優遇と言うより、LGBTQ の理解が不十分と感じています。
- ・差はないと信じたいところ。

#### 【分析】

「差はない」が54.1%と全設問中最も高く、学校教育の場は他の分野と比べて男女平等が比較的実現されていると認識されていることがわかる。男性優遇と回答した割合は12.0%（「男性が優遇されている」3.0% + 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」9.0%）にとどまった。

一方、「わからない」が28.6%と全設問の中で最も高い割合を占めており、学校教育の場における男女格差の実態について、自身の体験として実感しにくい回答者が多いことが示唆される。

自由意見では、「最も差があってはならない場だ」という意見や、「校長・教頭などの役職は男性が主流だった」という指摘がある一方、「40年以上前から男女の教員に差はないと思う」という声もあり、評価が分かれている。また、LGBTQ への理解不足や、大学入試における女性枠の是非など、新たな課題に言及した意見も見られた。

## 4 地域活動の場

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	23人(17.3%)	5人(8.1%)	18人(27.7%)	0人(0.0%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	27人(20.3%)	15人(24.2%)	12人(18.5%)	0人(0.0%)
差はない	51人(38.3%)	27人(43.5%)	22人(33.8%)	2人(33.3%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	9人(6.8%)	4人(6.5%)	4人(6.2%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	2人(1.5%)	1人(1.6%)	0人(0.0%)	1人(16.7%)
わからない	21人(15.8%)	10人(16.1%)	9人(13.8%)	2人(33.3%)

### 【自由意見】

- ・地域の集まりは男性だけで行われるものがとても多い。
  - ・お祭りで女性が活躍するところは少ない
  - ・女性は、区長とかの候補にあがらないので、やりたい人は、やってもいいが、大半はやりたい人はいないので、女性は除外？(優遇)されていると思う
  - ・女の人が意見など言うと軽く見られる。
  - ・例えば区長を選ぶ時あきらかに女性のほうが能力的思考的に優秀であっても選ぶ対象にもならない
  - ・女性構成員少。役員男性優位。
  - ・育った環境や地域の特性だと思うが、男尊女卑という考えはまだ多く感じる。
  - ・役員を務めなくても良いから(女性が優遇されている)
  - ・男性が中心で女性は補助的な立場？
  - ・地域役員は、男性ばかり
  - ・地域の総会にはほとんどの参加者が男性である
  - ・地域活動で、まだまだ女性の参加が少ないのは自分の時間が取れないからと感じている。
  - ・コミュニティ活動等今では差はない。
  - ・区の役員等、まだまだ男性がほとんどやっています。
  - ・地域、役員、駐在員など、なぜ男性しかいないのか。偏った考えが多いように感じる
  - ・力仕事が多いので、「参加」の意味では男性が優遇されているものの、単純に女性には難しいという側面もある。
  - ・「祭り」で見れば、伝統もあるが山車を押すので男手。お囃子は女性も受け入れられつつある。当地区では男性は山車、女性は台所番であるが、別地区では女性を大切にしている時期なので、祭りの一切は男性が担い、女性は飲み会を楽しみ、子供がいれば男性は子守りに回るという地区もある。地区によって女性の立場が異なる。また、地域活動(共助系)は女性が潜在的に「目立ちたくない」と思っている人が多く、表に出て来ない場合がある。
  - ・役員が男性ばかり
  - ・特に、小さな部落であればある程、祭りや集会のたびに男性は酒を飲んだり、食事に区費を使っている。
- 優遇にあたるかはわからないが、地域活動として海岸の砂防設置、体育委員などは男性が主体となっている。
- ・私はマンション住まいで総会がある時など年配の男性の意見に逆らえない女性たちが自分を含め多いように感じます。
  - ・男性の参加の方が多いと思うから
  - ・地域の祭りや行事などに男性の参加が多いから。
  - ・自治会などの出席者は男性が多い

- ・区の役員や、老人クラブなどほとんどが、男性で、決定の場面での女性の発言する機会がない
- ・区民対象の総会は、9割5分が男性参加です。役員構成も同様です。女性の意識改革も必要ですが。
- ・女性の区長や副区長は皆無
- ・伝統的に男性が表に出る状況であると思うが、優遇されているとは思わない。やりたがらない地域行事をルーチンのように半ば嫌々にやっている状況と思います。
- ・女性の育児、家事に対する考え方しだいで様々な場に行くことができる。
- ・地域の役職には男性がつくものだという風潮がある限り女性が優遇されていると感じる。

#### 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の37.6%が男性優遇と回答しており、「差はない」の38.3%とほぼ並んだ。

性別で見ると、女性の46.2%が男性優遇と回答した一方、男性は32.3%であった。また、「わからない」が全体の15.8%と比較的高く、地域活動への参加頻度や経験の差によって実態の把握が難しい層が一定数いると考えられる。

自由意見では、区長や役員などの地域の役職を男性が占めていることへの指摘が非常に多く、「女性の意見が発言・決定の場に届きにくい」という声も複数寄せられた。また、祭りなどの伝統行事における男女の役割分担については、「慣習として受け入れている」「地区によって異なる」など多様な見方があり、一律に評価することの難しさもうかがえる。「地域役職への女性参加に女性自身が消極的」という意見もあり、制度面だけでなく意識面からのアプローチも必要であることが示されている。

## 5 政治の場

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	36人(27.1%)	11人(17.7%)	24人(36.9%)	1人(16.7%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	46人(34.6%)	20人(32.3%)	25人(38.5%)	1人(16.7%)
差はない	36人(27.1%)	21人(33.9%)	12人(18.5%)	3人(50.0%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4人(3.0%)	4人(6.5%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
女性が優遇されている	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
わからない	11人(8.3%)	6人(9.7%)	4人(6.2%)	1人(16.7%)

### 【自由意見】

- ・ようやく女性首相誕生になったため
- ・議員少ない
- ・規定、所得、給料、働き方(で男性が優遇されている)
- ・比率の差(男性が優遇されている)
- ・女性が総理大臣になったけど、男性の政治家のほうが圧倒的に数が多いため
- ・要職は男性の方が多い
- ・まだまだ政界で男性社会が抜けていない。
- ・優遇ということではないと思うが、男性の方がより権力に近づきやすいように感じる。
- ・意見が通りやすい(男性が優遇されている)
- ・立候補者が少なく当選しやすい(女性が優遇されている)
- ・女性議員定数を増やすなど、性別のみを理由にしているように感じられてしまう。強引な男女共同参画は本質から逸れているのではないか
- ・南知多町議員の男性と女性の割合をみて感じる
- ・それぞれのポストの長を占めている割合が高いのは、まだ男性。
- ・議員も圧倒的に男性なので、女性特有の問題や機微には弱い。想像が及ばないことも多く、政治に反映されていない。女性も受け身で諦めている。女性には「言っても変わらない」「意見すると否定され、同性からも責められる」など、意見にはリスクばかり付いてくる。一方で、男性は現状の男性優位を維持したいから声を出す。女性の意見が少数であることをいいことに潰しにくる。「変えたくない」保守志向が日本の中心勢力なので、男尊女卑や無意識の男は〇〇すべき女は〇〇であるべき思考が残り続けている。「お母さんなんだから」「男は働け」「男らしく女らしく」。女性が自由を求めているというより、男性が自分の負担を増やしたくないがために政治も動かない。
- ・男性の方が能力があると考える
- ・母親業をしながら政治家を務めている人が目に見えて少ない
- ・未だ昔からの力のある男性政治家に振り回されているように思います。
- ・そもそも立候補する人は男性が多い。必然的に男性の意見が多くなるし大きくなってしまう
- ・男性の参加が多い
- ・男性の政治家が多いから。
- ・議員の性比は偏っている
- ・9割5分が男性参加。女性の意識改革も必要ですが。
- ・女性の政治家が占める割合がまだ低い
- ・男性多数で女性の意見がどこまで通るか疑問
- ・古い人は男性上位を常識として思っているのではないか。若い男女の政治家が出現しているところ(が、男女に差はないと感じる)

・立候補までに、男女同じではない様に思う。

・男性の人数が圧倒的に多いため、女性の意見が少数派になってしまう

#### 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の61.7%と、全設問の中で男性優遇と感じる割合が最も高かった。「差はない」は27.1%にとどまっている。

性別で見ると、女性では75.4%が男性優遇と回答しており、男性の50.0%を大きく上回っている。男性では「差はない」が33.9%と相対的に高い一方、男性の中でも過半数が何らかの形で男性優遇を認識しており、政治分野における男女格差は広く認識されていることがわかる。

自由意見では、議員・要職に就く男性の多さや、女性の意見が政治に反映されにくい構造への指摘が目立つ。「女性の総理大臣が誕生した」という変化を評価する意見がある一方、「立候補の時点で男女が同じ条件ではない」「女性が意見を出すリスクが伴う」という声もあり、形式的な平等と実質的な平等のギャップが浮き彫りになっている。また、「性別のみを理由にした議員定数の優遇は本質から逸れている」という意見もあり、平等の実現手段についての議論の余地も示されている。

## 6 社会通念・慣習・しきたりなど

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	41人(30.8%)	12人(19.4%)	28人(43.1%)	1人(16.7%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	50人(37.6%)	24人(38.7%)	26人(40.0%)	0人(0.0%)
差はない	26人(19.5%)	16人(25.8%)	8人(12.3%)	2人(33.3%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4人(3.0%)	3人(4.8%)	0人(0.0%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	1人(0.8%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	1人(16.7%)
わからない	11人(8.3%)	7人(11.3%)	3人(4.6%)	1人(16.7%)

### 【自由意見】

- ・お祭りなど男性中心。自分が子供の頃は女がやっってはいけない物だった。
- ・男性をたてるというのは日本の文化でもあるので、そこは理解しているし、そうあるべきとも思う
- ・男尊女卑感がすごい
- ・どちらかと言うと、男の人の意見がとおりやすい。
- ・まだまだ男性優位の考え方が高齢者など地域の中核にはびこって受け継がれている
- ・優遇というか男性が偉そう。たいした仕事もしないのに口ばかり
- ・女性活躍の場が多くなりつつある実感はあるが、現実場面構成比は少数
- ・親戚で集まったときなど男性は何もしないのに女性は片付けや配膳をしないといけないこと。田舎だからまだそういった風潮だと思うけど自分の娘にそうゆう思いをさせたくないからなくしたい
- ・結婚した後、男性の実家の方が優遇されがち
- ・田舎の慣習が根強い
- ・今だに女性を蔑む言葉を平気で口にする男性達。
- ・家事や子育てに関し、今だに女性がやるものという概念が横行している。それは女性も。
- ・同じ参加という意味では男性が優遇されているものの、力仕事が多いので、単純に女性には難しいという側面もある。また、地域活動(共助系)は女性が潜在的に「目立ちたくない」と思っている人が多く、表に出てこない場合がある。
- ・祭り等伝統行事はまだ男性主導。
- ・女性が表に出る機会が少ない
- ・伝統を守るということは「男は力仕事」「女は台所」になってしまう地域もある。女が台所や片付けて男は飲み食べ散らかしている。私の地区はこんな感じなので、祭礼期間は女性ファーストな地区が羨ましい。何か高額なモノを買う時、旅館で食事が出される時、重要な説明を聞く時、ほとんどが夫が優先される。確かに世帯主だし収入も多いから仕方ないのだけど。ここで男性は「なんでそんなことで文句をいうのだ。女は細かい。」などと吐くので、そこに潜在的な男性優位が存在する。
- ・天皇制、相撲の土俵に関して(男性が優遇されている)
- ・祭などの行事は男性が主体だが、慣習にとらわれたくない人からすれば女性の方が優遇されているともとれる
- ・地域など昔の考え方が変わらない(男性が優遇されている)
- ・地方では、今でも祭り事や、家の継承など男性優位な事がある。
- ・社会構造はまだまだ男性優遇の考えがなくなっ

ていないと思う組織や能力にもよるが、男性が経営側にいる場合が大多数である

- ・区に於いても 男性主体
- ・祭祀は男子が行うことが多い
- ・一般レベルでは、格差縮小の傾向ですが、責任を伴う職は、依然として比率が改善していないと感じています。
- ・選択的夫婦別姓がなかなか実現しない
- ・古い人は男性上位を常識として思っているので

はないか。若い男女の政治家が出現しているところ(が、男女に差はないと感じる)

- ・まだまだ、意識をしないと男性優位でできて来た社会が残っていると思う。
- ・年齢層により大きな差がある
- ・男性は金を儲け、女性は家事をという風習が残っていても、その人たちが不満を感じないなら問題はないのでは。

### 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の68.4%と、政治の場と並んで男性優遇を感じる割合が高い設問となった。「差はない」はわずか19.5%にとどまっている。

性別で見ると、女性の83.1%が男性優遇と回答しており、全設問・全区分の中で最も高い割合を示した。男性でも58.1%が男性優遇と回答しており、社会通念や慣習における男女格差については男女ともに高い問題意識を持っていることがわかる。

自由意見では、「家事・育児は女性がやるもの」という意識の根強さ、祭りや伝統行事における男性中心の役割構造、親族の集まりでの配膳・片付けの女性への偏りなどが具体的に挙げられた。「高齢者ほど男性優位の意識が強い」「年齢層による差が大きい」という指摘が複数あり、世代間での意識の違いが大きいことも特徴的である。また、選択的夫婦別姓や天皇制・相撲の土俵問題など、社会制度・伝統に関する事例も挙げられており、慣習と平等の間の複雑な関係性が示されている。

## 7 社会全体として

区分	全体	男性	女性	回答しない
男性が優遇されている	15人(11.3%)	5人(8.1%)	10人(15.4%)	0人(0.0%)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	65人(48.9%)	27人(43.5%)	36人(55.4%)	2人(33.3%)
差はない	34人(25.6%)	19人(30.6%)	14人(21.5%)	1人(16.7%)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8人(6.0%)	6人(9.7%)	1人(1.5%)	1人(16.7%)
女性が優遇されている	3人(2.3%)	2人(3.2%)	0人(0.0%)	1人(16.7%)
わからない	8人(6.0%)	3人(4.8%)	4人(6.2%)	1人(16.7%)

### 【自由意見】

- ・まだ社会全体には、男女差が有る(男性が優遇されている)
- ・数十年後には、平等になるかな
- ・何となく女の人のの方が格下という印象を感じます
- ・ガラスの天井あり(男性が優遇されている)
- ・だいぶ世の中がかわってきたけど、場所によると思います。特に田舎の方はまだ女の立場が弱い気がするのでみんなの意識が変わっていくといいなと思います
- ・置かれてる立場や年齢、環境などなどで感じ方は異なると思うが、男女ともに差があることを自由に声に出せる社会になったと思う。
- ・社会通念と子育て期間のキャリア喪失が諸悪の根源、それにより男性雇用が促進されている。
- ・女性の権利が強く主張されがちに感じる
- ・圧倒的にまだまだ男性が仕事をして女性は家事育児、家庭のケアにまわっており、女性の社会進出がむずかしいと感じる。管理職や社長に女性が少ない。
- ・男子が優遇されていると思う。理由は女子が優遇されているとの実感がないから。
- ・家長制度等全般的に、まだまだ男性の優遇感覚が強い。
- ・女性は妊娠出産でキャリアが中断するというのももちろんありますが、40歳を過ぎた独身男性

を積極的に採用する組織もあって、身軽に全国異動ができる人材は優遇されると目にしてみました。

また、転職活動でも子供がいて祖父母の協力があるか(残業できるか)はよく聞かれることでした。男性は「子供の世話」について聞かれないのに女性には聞く。現代では子供のことは聞いてはいけないらしいので、女性というだけでハードルが上がってしまう。さらに、夫(公務員・40代)も赤ちゃんが生まれたばかりなのに、管理職で育休もままならず、残業や当番が多いけれど、職場はカツカツなので、妻である私はワンオペであり、育休復帰も不安です。「妻がいれば配慮しなくてよい」という雰囲気があります。わが家の育児は夫が主体です。なので、家庭生活では私が男性的立場で、より仕事では男性優位だと感じます。

- ・世の中全体が未だ男性社会だと思います
- ・母親になったらやはり子どもの世話をするのは当たり前で、することが嫌とか、男女平等ではないと言いたいわけではない。学校行事などの参加は母親側がいまだ仕事を休んで出なければならぬのも男女平等になってないと言いたいわけではなく、仕事を休まなければならないので、有休扱いではない何か新しい制度があると、いいなと思う。

- ・子育てにおいては女性に負担が偏っていると思う。
- ・男社会はまだまだ終わってはいない。専業主婦もパート女性でも自分の役割をキッチリやろうと頑張っているけど家事で給料は貰えずパートの給料も少ないため社会的に女性と男性が同等に見てもらえる日がやってくるのか疑問。
- ・優遇されるべきと考える男性(年配の方は特に)が多いように思う
- ・そもそも男女平等という概念を考えなおすべきではないか。男女の存在は役割が違う為、同じ土俵で比べるべきではないと思う。平等という言葉が新たな差別を生んでいる可能性もある。また、「男女」という文字列自体、男が前に来ている時点で社会全体としても男社会ではないか？というふうを感じるし、平等という議論ではそれぞれの意見はそれぞれの揚げ足とりになっていると感じる。人間公平と言った方が差別的でもなくなるし、わかりやすく分類出来るのではないかと思う。
- ・かなり改善されてきたが、まだ、昔ながらの(男性が優遇されている)雰囲気がある。
- ・内助という言葉がいまだにある
- ・(女性が)優遇されているというより守るべき対象とされている
- ・非正規雇用は女性の方が割合が高い
- ・近年、各種制度等の整備により男女差は無くなってきていると感じる。
- ・やはり家庭は女性優位だが世間一般は男性社会で、そうでないと物事が治っていかない感じがする。
- ・性差による配慮、個人の資質などがある中、男女の違いによる優遇の差なのか、性別関係なく個人としての優遇の差なのか、性差により配慮しなければならない部分なのか、一概に判断することが難しい。
- ・優遇と言っていることが問題で、女性目線からの意見がクローズアップされて、報道では男性を悪のようにならわれているように感じるが、男女ストレスが少ないいい関係が必要ではないか。
- ・まだまだ、意識をしないと男性優位でできて来た社会が残っていると思う。
- ・結婚して姓を変える場合、男性の姓に変えることがほとんど。本当は変えたくない女性もいる。
- ・40代以降の世代が考え方がまだ男性地位が上の考えが大きい。

## 【分析】

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体の60.2%が男性優遇と感じており、「差はない」は25.6%であった。社会全体に対する評価として、依然として男性優遇の意識が根強いことが確認できる。

性別で見ると、女性の70.8%が男性優遇と回答した一方、男性は51.6%であった。男性においても過半数が男性優遇を認識しており、社会全体としての男女格差は広く共有された認識となっている。

自由意見では、「まだ男性社会は終わっていない」という意見が多い一方で、「近年は制度整備が進み格差が縮小してきている」「数十年後には平等になるかもしれない」という前向きな意見も見られた。また、非正規雇用に女性が多い問題、転職・就職活動での女性への不平等な質問、育休取得が難しい職場環境など、制度と現実のギャップへの指摘が多い。さらに、「男女平等という概念自体を問い直すべき」「女性目線の意見ばかりがクローズアップされている」という、議論の枠組みそのものへの問いかけも見られ、問題を多角的にとらえることの重要性が示されている。